

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和2年度第4回 益田市総合戦略審議会
開催日時	令和2年11月30日（月）15：00～16：30
開催場所	市立市民学習センター 研修室202
出席者	○出席者 [審議会委員] 藤原眞砂会長、森本恭史副会長、竹内直実委員、松本満委員、川角洋二委員、宮野裕樹委員、山田さくら委員（テレビ会議による出席） [事務局] 山本総合戦略室長、岡藤主任主事 [事業担当課] 社会教育課 中島係長 政策企画課 矢田参事 産業支援センター 中島主査 観光交流課 岡崎課長 文化財課 中司主任 人口拡大課（美都支所地域振興課） 浅野課長補佐、押谷主任 ○欠席者 [審議会委員] 澄川聡美委員、福丸泰文委員
議題	(1) 第2期総合戦略案のKPIについて (2) 第2期総合戦略案（全体）について (3) 今後のスケジュール（予定）について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1. 開会 ○あいさつ	
2. 議題	
(1) 第2期総合戦略案のKPIについて（資料1、追加資料「将来人口の推計」）	
○第2期総合戦略案のKPIについて、戦略ごとに事務局・事業担当課から説明	
横断戦略 社会変化に対応できる持続可能なまちをつくる ※資料1の網掛けの項目（修正箇所）について、各担当課から説明。 ・通番9は、前回審議会で説明した目標値を修正。文化財課において、目標する取組件数を大きな事業ごとに計上していたが、大きな事業の中でもさまざまな協働の取組を行おうとしているため、個別の案件ごとに件数を数え直すこととした。	
委員	横断戦略の数値目標が大きく変わった。資料1の説明文は分かりにくい。審議会でも何度も説明を聞いている委員であれば理解できるかもしれないが、初めて見た人は理解できないと思う。 また、基本戦略1の中で、農林業研修受け入れ人数だけがカウントすべき数字なのかという点も疑問に感じる。 「ひとづくり」の施策に関わる市民の数という目標自体に、無理があるのではないか。
事務局	基本戦略1から4において取り組むこととしている「ひとづくり」に関する施策のKPIを抜き出した形だ。

	もともとは、横断戦略の KPI が市外の若者に関することに偏っているという意見があったため、施策に関わる市内の人をターゲットにした KPI を設定することとした。
委員	この 4 つの数字だけを足して KPI にするというのは、いかがなものか。私は、元の「総人口」の方がいいと思う。
社会教育課	この数字のたたき台となるものは、社会教育課から提案させていただいた。人口は減っていくものの、「ひとづくり」の施策によって活動が活発になった大人・子どもが増えていけば、素敵なまちになるのではないかと、という思いからだ。そういったことが KPI として数値化できないかと考え、最初は割合で出そうとしたが、現状が 1%程度から目標が 3%程度ということになり、インパクトが薄くなってしまった。割合を出すための数字についても、何を根拠とすべきか悩んだところだが、この提案を事務局で揉んでもらい、ご説明した数値目標を出させていたところだ。
事務局	この数値目標は、再掲の形で、下の「重要業績評価指標 (KPI)」のところにも掲載したいと考えている。
委員	基本戦略 1 から 4 の、それぞれの KPI については審議会で検証することになる。その数字を単に足したものを KPI にする必要があるのか。
事務局	横断戦略に掲げる各施策を実施して、「総人口」には直接結び付かないと考えたために、新たなものを設定した。
委員	私は、「総人口」に結び付くと思う。最終的には、そのための施策だ。
事務局	横断戦略は分野がすべてにまたがると考えて、そのようにご理解いただけるのであれば、数値目標を「総人口」のままとさせていただきたい。
委員	足した人数だけで出すと、どこかの施策が停滞していても、他のところでカバーされてしまって、停滞しているものが見えてこない。
委員	それぞれの KPI は個別に検証するので、4 つだけを足すということ自体がそもそもいかがかと思っている。
委員	せっかく幅広い施策があるのに、ここに挙げられている 4 つはスポット的だ。この 4 つに関わる市民の数だと、すごく少なくなってしまうと思うので、それを全施策を横断する戦略の目標として掲げていいのかと思う。
委員	一番大きなところだ。私は、「総人口」という説明で、前回の会議のときも納得できた。人口減少をいかに食い止めるか、という意味で、元のままでいいのではないか。
委員	確かに、この 4 つの項目だけを取り上げて全体を評価するというのは、目標としては弱いのではと思う。基本戦略 1 は農林業の 6 人で、基本戦略 3 はライフキャリア教育の 441 人となると、基本戦略 1 の重みが低くなってしまおうと感じる。
事務局	ご意見を踏まえ、「ひとづくり」の施策に関わる市民の数については、現状の KPI が市外の若者に偏っているということがあったため、KPI のところには残して、数値目標については「総人口」に戻すということにしたい。 また、資料 2 の 9 ページが横断戦略の掲載箇所となるが、この【基本的方向】の文章と【数値目標】との整合性が図れるよう、【基本的方向】の文章に総人口に関する記述を入れることも検討したい。
委員	KPI には追加するということがだが、ここでも単に数字を足したものでいいのかということになる。
事務局	市内の人に関する KPI も必要であるという思いからだが、このような KPI を設定すること自体をご了承いただけるのであれば、数値の出し方については、事務局で検討させていただきたい。
委員	「市民の数」という考え方で指標とするのは難しいかもしれない。考えていただきたい。
委員	数字については工夫をしていただきたい。 今日が最後の改訂内容についての審議となるが、修正の対応はどうなるのか。

事務局	修正した内容は、郵送等で委員の皆様にお示しする。
委員	通番 4 の下に追加した「益田市で交流活動した県外の若者の満足度」については、事前と事後でアンケートを取るのか。
社会教育課	そのように考えている。
委員	通番 6 の下の追加「益田市で一週間程度、インターシップや体験活動した若者の満足度」も同じように事前と事後でアンケートを取るということか。
社会教育課	そのとおりだ。 どのような質問をするか、具体的にはまだ想定していないが、インターシップなどに来たときと帰るときに同じ質問をして、その満足度がどのように変容したか、ということを考えている。
委員	測り方は担当課の工夫にお任せすることにしたい。
基本戦略 1 定住の基盤となるしごとをつくる <ul style="list-style-type: none"> 通番 14 について、前回説明した現状値は 1 月から 12 月の数字だったが、調査方法を変更して 4 月から 3 月とした。目標値の設定のしかたは変更していない。 通番 16 の下の追加「しまねいきいき雇用賞受賞企業数」については、前回、「就職ガイダンス参加人数」としていたが、基本戦略 1 には内容的に当てはまらないのではというご指摘を踏まえ、変更した。 通番 24 の下の追加「日本遺産ビジターセンター（仮称）の来場者数」は、地方創生の交付金の活用も考えているため、総合戦略にしっかりと位置付けたいと考えて追加した。 通番 25 は、通番 14 と同様に、区切りを年単位から年度単位に改めた。また、外国人宿泊者数については、前回いただいたご意見を踏まえ、宿泊者数の増加割合と同じ 115% 増の目標に変更した。 通番 30 の道の駅整備については、基本構想を策定した時点では「食を活かした」ということをテーマとしていたが、現在の国の整備方針は防災に重点を置いている。そのため、防災面についても整理し直す必要があることから、第 2 期総合戦略の KPI からはいったん削除し、今後、方針が決まった時点で再検討したい。 	
委員	通番 14 について、区切りを改めたのはどういう理由からか。
観光交流課	他の KPI はすべて年度単位となっていたため、合わせた。
委員	通番 16 の下「しまねいきいき雇用賞受賞企業数」について、現状値も目標値も累計 4 社となっているが、まったく同じ 4 社が継続するという意味か。
産業支援センター	新規に 4 社という意味で、平成 26 年からの累計だと 8 社となる。
委員	これまでの累計で出した方が分かりやすいのではないか。
委員	益田市として何か援助をすることを考えているか。
産業支援センター	若手職員の定着という観点で、こういった取組をしている企業の情報提供をしたり、研修を行ったりすることで、魅力ある職場づくりをする企業が増えるようにしていきたい。
委員	全体の話だが、「現状値」というのは令和 2 年度ではなく元年度の数値を現状値とするのか。
事務局	基本的には、そのとおりだ。令和元年度の数値が出せないものは、前年（平成 30 年度）の数値としているものもある。基本は、令和 2 年度の数値は入れない。
委員	今年は異常とも言える年だったので、それでいいと思う。
基本戦略 2 結婚・出産・子育ての希望をかなえる <ul style="list-style-type: none"> 通番 31 の合計特殊出生率の目標値について、資料では 1.99 としているが、1.96 に訂正する。追加資料「将来人口の推計」にて、根拠をお示ししている。平成 25 年度から平成 29 年度までの合計特殊出生率が 1.81 と公表されたため、それに基づいて推計をし直したものだ。 	

委員	通番 37 と数値目標に追加した「学校の学びを地域活動に活かす取組の実施地区数」は、どういう意味か。
事務局	公民館とその地区の小学校、中学校が連携をして、学校で学んだことを地域活動で実践したり、地域活動を学校の中でも活かしたりという形で、学校教育と地域の公民館活動を行う地区数だ。 前回のご説明から、分かりやすいよう表現を変更した。
委員	「数値目標」と「重要業績評価指標（KPI）」に同じものが載るということか。
事務局	そのとおりだ。「数値目標」は、基本戦略の大きな目標となる。
委員	審議会で毎年検証していくのは、あくまでも 1 つの KPI として審議していく。冊子にしたときに、大きい目標として総合振興計画に残るのが上の段の「数値目標」、別冊になるのが下の段の「KPI」という分け方だ。
委員	ダブルカウントするということではない。
基本戦略 3 益田に回帰・流入・定着するひとの流れをつくる <ul style="list-style-type: none"> 通番 43 について、前回説明した目標値より 50 人増の 250 人を目標としたい。県外からの U・I ターンには力を入れているところであり、もう少し伸ばす必要があると考えた。令和 2 年度の実績としては、U・I ターン者数は減少しているが、相談件数は増えているため、目標とできる数値だと考えている。 通番 49 は、前は「日本遺産に関する出前授業を実施した小中学校及び公民館の数」としていたが、1 度きりなのか、何回か実施するのか等の質問をいただいた。ご質問を踏まえて再考し、もう少し定性的な意味の目標を設定することとした。 通番 49 の下の追加「歴史文化を活かした協働の取組件数」については、出前授業などをする中で、受講者に対し、ワンアクション起こしてみませんかという投げかけをすることで、地域での協働の取組を増やしていきたいと考え、追加した。 	
委員	U・I ターンの相談件数は増えているとのことだが、相談件数のカウントはどこでしているのか。
事務局	市の人口拡大課だ。
委員	通番 49 で「定性的」と説明されたが、満足したかどうかなどの主観的な思いである定性的なものを、満足と思う人の割合という形で定量化した、という意味だと思う。
委員	通番 32、33 の子育てに関するアンケート結果などの目標は削除されていたが、主観的なアンケートだからという意見が出たことも理由だったのではと思う。通番 49 も主観的なアンケートだが、入れるのか。
事務局	通番 32、33 のアンケートは、令和 7 年度までの間に、令和 4 年度の 1 回のみしか実施しないというものだった。そのため、目標値に設定して検証ができるのかという意見をいただいた。 アンケート結果であっても、きちんと検証でき、KPI としてふさわしいと思われるものは残している。通番 32、33 を削除したのは、検証の面でふさわしくないとの判断からだ。
委員	通番 49 の算出根拠について、小学生が 80%、中学生が 60%とあるが、両方 70% でもいいのではないかと思う。
文化財課	目標設定に当たって、学校教育課と相談したところ、中学生は低くなるのではないかという意見をいただいたためだ。
委員	目標なので、70%でいいのではないか。
事務局	実態としては説明のとおりかもしれないが、目標としては両方 70%としたい。
基本戦略 4 地域にあるものを活かし、安心して暮らせるまちをつくる <ul style="list-style-type: none"> 通番 53 の下の追加「新たに整備した地域交流拠点の利用者数」については、二川小学校跡施設を整備して交流拠点とするが、利用は令和 4 年度からの開始を見込んでいる。当初、令和 4 年度から 7 年度までで毎年 100 人ずつ増加させることを目標に考えていたが、社会状況を踏まえて、80 人ずつの増加を目標としたい。 	

委員	通番 56 の「主観的幸福感」というのは、不快感を覚える。「幸福感の高い高齢者の割合」でいいのではないか。
委員	どのように調べるのか。
事務局	担当課で計画を作る際にアンケートを行う。そのアンケートで重要な項目となっている。
(2) 第 2 期総合戦略案 (全体) について (資料 2、3)	
<p>○第 2 期総合戦略案 (全体) について、事務局から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 の 2 ページに総合振興計画と総合戦略の関係図を追加した。 ・資料 2 の 10 ページ【数値目標】の「市内事業者数」などについては、これまでの実績と今後の目標値の推移が分かるグラフを挿入することを検討している。 ・資料 3 では、目次のところで総合振興計画第 3 章 (資料 2) とアクションプラン (資料 3) の関係性が分かるような表記としている。 	
質問・意見なし	
(3) 今後のスケジュール (予定) について	
<p>○今後のスケジュール (予定) について事務局より説明 (資料 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の審議会で、第 2 期総合戦略については概ねご了承いただいた。今後は、委員の皆様からいただいた意見を踏まえて修正し、12 月下旬から 1 月中旬にパブリックコメントを実施する。 ・修正後の案は、郵送させていただくので、またご意見があれば頂戴したい。 	
質問・意見なし	
3. その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の審議会は、今回が最後となる。 ・来年度以降は、第 2 期総合戦略に基づいて事業を実施し、進捗管理を本審議会で行うこととなる。 	
委員	最終的に、令和 2 年度事業の検証はやらないのか。
事務局	第 1 期総合戦略の計画期間となるので、検証する予定だ。特に、地方創生推進交付金や企業版ふるさと納税を充てている事業については、審議会で検証していただく必要がある。
4. 閉会	